|  |  |
| --- | --- |
| 到達目標 | １　心肺蘇生法（主に成人を対象）を、救急車が現場到着するのに要する時間程度できる。２　自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。３　異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。 |

普通救命講習Ⅱ　カリキュラム

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　　　　　目 | 細　　　　　目 | 時間（分） |
| 応急手当の重要性 | 応急手当の目的・必要性（心停止の予防等を含む）等 | 15 |
| 救命に必要な応急手当（主に小児、乳児、新生児に対する方法） | 心肺蘇生法 | 基本的心肺蘇生法（実技） | 反応の確認、通報 | 165 |
| 胸骨圧迫要領 |
| 気道確保要領 |
| 口対口（口鼻）人工呼吸法 |
| シナリオに対応した心肺蘇生法 |
| AEDの使用法 | AEDの使用方法 |
| 指導者による使用法の呈示 |
| AEDの実技要領 |
| 異物除去法 | 異物除去要領 |
| 効果確認 | 心肺蘇生法の効果確認 |
| 止血法 | 直接圧迫止血法 |
| 心肺蘇生法に関する知識の確認（筆記試験） | 知識の確認 | 60 |
| 心肺蘇生法に関する実技の評価（実技試験） | シナリオを使用した実技の評価 |
| 合　計　時　間 | 240 |

|  |  |
| --- | --- |
| 備　考 | １　普通救命講習Ⅱは、業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対して応急の対応をすることが期待される者を対象とする。２　筆記試験及び実技試験については、客観的評価を行い、原則として80％以上を理解できたことを合格の目安とする。３　2年から3年間隔での定期的な再講習を行うこと。 |